



CMSI Seminar オーガナイザー
工学系研究科バイオエンジニアリング専攻（高井まどか）

去る 2012 年 1 月 17 日（火）、工学部 4 号館 205 室にて CMSI-GCOE セミナーが学内・外の参加者 35 名を集めて開催されました。本セミナーは 2008 年 7 月より実施されているグローバル COE プログラム「学融合に基づく医療システムイノベーション (CMSI)」(拠点リーダー:片岡一則教授)の一環として企画、開催されています。

セミナーでは、埼玉大学大学院理工学研究科生命科学部門 坂井貴文教授に、消化管ホルモン ghrelin【グレリン】の生理作用とグレリン受容体アプタマーの開発について講演を頂きました。グレリンは、比較的最近見つけられた胃から分泌される 28 アミノ酸残基からなるペプチドで 3 番目のセリンがオクタン酸によって修飾される特徴的な構造を有している。グレリンは、グレリン受容体 (GHS-R) に結合することによって成長ホルモン分泌刺激、摂食亢進、血糖調節そして消化管運動調節など様々な生理作用を発揮する。細胞を用いた *in vitro* cDNA display 法を独自に開発し、これを用いて GHS-R に特異的に結合するペプチドアプタマーの開発を行った研究成果が紹介されました。グレリンの生理作用の解明、創薬開発といった大変興味深い内容であり、学内の学生および研究員だけでなく、医薬品開発の企業からの参加者も多く、議論も活発に行われ盛況であった。